

■特集

全国初の常設認知症カフェ（診療所併設） 「京都認知症総合センター」を見学しました



■特別対談 社会福祉法人悠仁福祉会様 × ネクストビジョン
意識的なスタッフへの声かけ、成功体験を得る機会の拡大など
職場環境の改善から提供サービスの質の向上につなげていく

■五味の今号のツボ
スタッフ一人ひとりの自覚が利用者様・ご家族様の人生に影響する

■特集 全国初の常設認知症カフェ（診療所併設） 「京都認知症総合センター」を見学しました



株式会社ネクストビジョンは、注目の介護事業所・高齢者住宅を見学する独自の研修活動を行なっています。今回、広報誌第1号を制作するにあたり、全国初となる認知症総合センターを訪問させて頂きました。その取り組みやスタッフの方が感じている課題など、ネクストビジョンならではの視点でレポートをさせていただきます（写真上は、ペッパー君に迎えられてニコニコの私たちです）。

京都認知症総合センターは「認知症に対応する医療」「本人と家族に寄り添う初期支援」「在宅生活を支える通所・訪問サービス」「手厚くサポートする入所施設」の4つの機能を備えた認知症の方と家族を支えるワンストップサービスで、今年4月、京都府宇治市に開設されました。



JR宇治駅近くに開設された京都認知症総合センター

開設者は宇治市で特別養護老人ホームや在宅介護サービスを提供する社会福祉法人悠仁福祉会です。母体は京都府で9病院・50を超える介護サービスを展開する武田病院グループだとか。規模がとても大きいですね。

このセンターは、認知症の初期から人生の最終段階まで、病状の進行に応じた医療・介護・福祉サービスを、馴染みの場所で馴染みのスタッフから受けられるのが大きな特徴です。病院グループの支えがあるのは羨ましい限りです。

注目の認知症カフェを拝見!!

私たちが一番、注目していたのは「認知症カフェ」です。認知症の方やそのご家族が、地域の人や医療・介護の専門職と交流し、情報交換を行う場で、公的サービスではありませんが、新オレンジプランで設置が推進されています。



最初にお邪魔したのは特養です



宇治武田病院とつながる廊下を拝見。何かあればストレッチャーで運べるそうです



1Fの「京都認知症総合センタークリニック」を拝見
同じ建物にドクターがいらっしゃるのには心強いですね



利用者さんとのコミュニケーション
「ようきはったね」との言葉に笑顔がこぼれます

診療所併設、病院とつながる廊下など、医療・介護の連携に注目!!

見学当日も、多くの方が認知症カフェに来られていました。お年寄りの皆さんがとても楽しそうなのが印象的です。

参加されている皆さんがどこから来られているのか気になってスタッフの方に尋ねてみると、「確認していない」そうです。え!?!、え!?!

つつい「登録」のような感覚になってしまっていたが反省ですね。誰でも立ち寄れる場をこうやってつくっているのだと感心しました。

尚、認知症専門の診療所を併設した認知症カフェ（常設型）は全国で初の取り組みだそうです。

「『どこから来ました? どこで知りました?』って、相手さんからしたら尋問されているみたいで居心地が悪いですね。気軽に来ていただけるよう、入り口では何も尋ねないことにしているのです」

なるほど! これは目から鱗です!
さらに尋ねてみると、会話のなかでそうしたお話もしながら自然なかたちで情報を得ているそうです。



見学当日の認知症カフェの様子



認知症デイでは男性利用者が多い(!)のに驚きました
そのヒケツを知りたかったのですが、分からないそうです



iPAD を駆使した記録システムに興味津々!
メリット、デメリット、使い勝手を教えていただきました



ペッパー君の魅力にみんなメロメロ♡ 高齢者にも大人気だそうです

社会福祉法人悠仁福祉会 京都認知症総合センター

京都認知症総合センタークリニック
グループホームヴィラ鳳凰
オレンジデイサービスヴィラ鳳凰
特別養護老人ホームヴィラ鳳凰
ケアハウスやまびき
デイサービスヴィラ鳳凰
ヴィラ鳳凰居宅介護支援事業所
訪問看護ステーションふくろう
訪問介護ステーションふくろう
カフェほうおう (認知症カフェ)



男性の多いデイサービスに驚き! 帰りたくなるデイに迫りたい

認知症対応型デイサービスを覗いて驚きました。
男性利用者様が多い! 4(男性)対6(女性)だ
そうです。どこでも悩みの声を聞くのですが、男
性がデイに定着するのは難しいですね。

期待してその秘訣をスタッフさんに尋ねてみたら
「私たちも分からないんです」…残念!



でも、ヒントはありましたよ!

こちらでは、認知症デイもグループホームも、「帰
りたい」と仰る利用者様がほとんどおられないそ
うです。大きな窓から外が見えていて、すぐ出ら
れそうに感じるでしょうに、凄いことですね。
それだけ、強い思いで皆さんがお仕事をされてい
るからなんだと感じました。

男性も女性も関係なく、利用者様を思う心と行
動がきっと、居心地の良い環境をつくっているの
だろうと感じました。

今回の見学では、現場のケアの様子、サービ
スの質を高める工夫、それを達成するためのスタッ
フの育成と、大変多くのことを学ばせていただき
ました。社会福祉法人悠仁福祉会・武田病院グルー
プの皆さんに感謝します。いただいた経験を御坊
市に持ち帰り、少しでも地域に還元できよう挑戦
していきたいと思います。



五味の今号のツボ

スタッフ一人ひとりの自覚が 利用者様・ご家族の人生に影響する

18万人超の人口を抱える宇治市は、150万人に近い京都市に隣接しており、10円玉に描かれる平等院鳳凰堂があることで大変、有名です。

当然、和歌山県御坊市とは人口規模（約2.4万人）も周囲の状況も全く異なります。それでも同じ介護保険制度のもと、日々一生懸命に働き、高齢者のために何が出来るか、地域のために何が出来るかを追求している姿は我々と変わりありません。

先進的な取り組みをしているうえ、従業員規模は3500人を超えているなど、武田病院グループさんはまるで一つの街のようでしたが、現場では我々と同じ悩みを抱え、同じように利用者様に対応していることを肌で感じました。

結局、個々のサービス提供は少人数で行うものなので、関わるスタッフ一人ひとりの自覚で、支援内容が変わり、対象となるお年寄り・ご家族の人生が変わってきます。気持ちを新たに、少しでも良い支援となるよう、少し背伸びをしながら自分たちに出来ることを頑張っていこうと思います。

我々が行っていることは「人対人」の関係、「人対人」のサービスと言われますが、それはサービスを提供する対象だけでなく、同業にある人達同士もそうだと感じます。頑張っている姿を見れば、当然、大きな刺激になります。今回頂いた刺激を、地域の皆様に還元し、一つでも二つでも、良いサービスとしてご提供できるよう努力を続けます。

快く見学させて頂いた社会福祉法人悠仁福祉会様に感謝申し上げるとともに、良い報告ができるよう励んでまいりたいと思います。

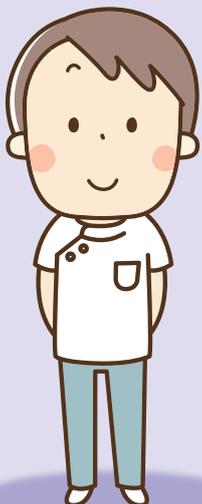


株式会社ネクストビジョン
代表取締役 五味 牧



みなさん感心の高いリハビリテーション。
ネクストビジョンのデイサービスでは、
看護師と介護職によるリハビリに加え、
作業療法士（OT）による専門性の高い
リハビリテーションを実施しています！

また**ナースが常勤**で対応しており、医療
依存度のある方も安心してご利用・ご入
居できます。詳しくはお問い合わせくだ
さい。





意識的なスタッフへの声かけ、成功体験を得る機会の拡大など 職場環境の改善から提供サービスの質の向上につなげていく

川口 今日の見学では、iPadでの記録がとても印象的でした。皆さんはどのタイミングで記録をつけているのですか？

山岡 一生懸命な人は、ある程度のことが終わってから記録しています。器用な人は、利用者さんが落ち着かれたら傍についてお話ししながら入力していますね。

小寺 台数を増やしたり、Wi-Fi環境を良くしたところです。まだまだ使いこなせていないのでしょうか。

山岡 年配職員は抵抗を感じる人もいます。

溝口 それでも頑張って使っているのですか？

山岡 「しゃあない」という感じでしょうね（笑）それをしないと仕事にならないので。

吉開 うちにも年配の職員がおりますので、お話を伺って「いけそう」と安心してました。時間短縮と記録ミスを無くすため、導入を検討しているのです。

小寺 業務時間内に記録が終わらない人もいます。慣れているのはそれなりに苦労するかも知れません（笑）

吉開 ご苦労されているのですよね（笑）ところで、認知症デイでは「帰りたい」と仰る方がほとんどおられないと伺いました。皆さんの気持ちが利用者様に寄り添ってるのだと感じます。経営理念である「思いやりの心」を抱くよう、どうされているのですか？

山岡 経営理念の唱和が基本です。でも特養やグループホームは不規則な勤務になっていて、唱和だけでは浸透が難しいと感じています。そこで定期的な面談と声かけを重視しています。



京都認知症総合センター
士長 山岡由佳 様



武田病院グループ本部 福祉介護部
福祉法人担当部長 小寺勝 様



濱上 先程の見学で山岡さんは、年2回の定期面談を続けていると仰っていました。それに、各部署の様子を確認し、声かけをしているとも。うちはこちらのよう到大規模ではないですが、それでも日頃の業務に追われて、それに甘え、十分、声をかけを出来ていなかったのを感じます。気付いた時の声かけ+定期面談をして、皆の思いを聞くようにしていこうと思います。

溝口 そうですね。週に2回、ラウンドされていると聞いて私も思うところがありました。うちはサ高住が複数あるのですが、山岡さんのラウンドのように、笑顔でスタッフさんから報告が出てきていないな、と感じました。

山岡 現場は「うわー来たー！」ってなっているかも知れませんが（笑）

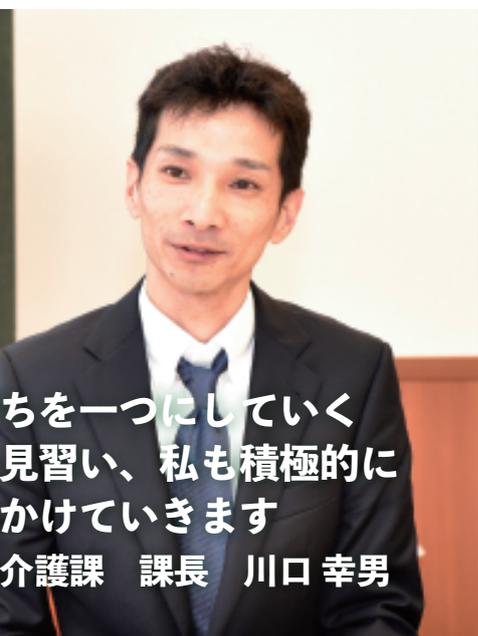
溝口 いえいえ（笑）そんなことはないと思います。見習って、意識して皆に声をかけていきます。

山岡 それと効果的なのが事例検討ですね。「こうした症状（行動・心理症状）が出ているので、これにどう対応していくか」を多職種で話し合っています。グループに分かれ、それぞれが利用者さんをどうやって支えていくかを考えることで、「思いやりの心」が培われていくと考えています。

吉開 効果を感じているのですね。

山岡 こうした活動を基礎に困難ケースに対処し、それに成功することで、意欲が向上しています。成功体験の効果はとても大きく、困難ケースの相談に前向きになり、断らなくなってきました。

五味 物理的に無理なケースはともかく、スタッフがすすんで検討するぐらい「受け入れる力」がついたということなのでしょうね。今日は、皆さんのお話に刺激を受け、みなさんの意欲が向上しているのを感じます。我々も「成功体験」がお話できるよう努力します。



ちを一つにしていく見習い、私も積極的にかけていきます
介護課 課長 川口 幸男



コミュニケーションが密でした現場から声があがりやすくなるラウンドをしていこうと思います
訪問介護課 課長 溝口 めぐみ

現場を把握するのは労力がいらいますそれだけ強い気持ちを利用者さんに向いているのだと感じました

介護統括事業部 部長（看護師）吉開 まみ